

単元名 「つくって、あそんで、楽しもう」

<本時の課題>
グループ全員でおもちゃのめあてをクリアするための方法を考えよう!

全 15 時間予定の7時間目

前時まで、自分がつくりたい動くおもちゃをつくってきた。

<授業の視点>

- である : 自分のおもちゃで達成すべきめあてを予め決めておいたことは、児童が自分のつくったおもちゃに問題意識をもち、より楽しいおもちゃをつくるための交流のきっかけとなっていたか。
- ◎はたらきかける : 同じ素材を利用しながら同じようなめあて（長い距離を走らせたい、よくとぶようにしたい、高くとぶようにしたい、うまく回るようにしたい等）をもっておもちゃづくりをしている児童同士をグループにして、遊びを通じた交流をさせたことは、素材の使い方に関する気づきを高めていくために有効であったか。また教師は、児童の気づきを適切につないでいたか。
- ふりかえる : 60分授業を設定して体験と振り返りの時間を確保したことは、振り返りの中で新たな気づきを見出すために有効であったか考えを交流し合う際に、同じような遊びをしている児童同士で交流したことは、さらに楽しい遊びや物をつくり出すための工夫に気付くために効果的であったか。



今まで、動くおもちゃをつくってきましたね。今日は、そのおもちゃで遊んで、前に決めた1人1人のおもちゃのめあてをクリアできるように話し合ってみましょう。

<であう>

振り返りカードを見て、自分がどんなめあてをもっていたのかを確認してみましょう。



手だて①

自分が決めためあてを声に出して読ませることで、自分のめあてを確認させた。

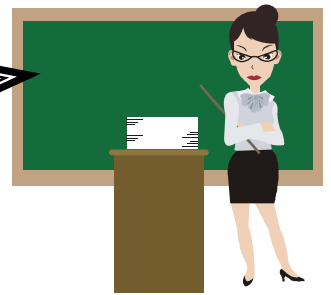
私のめあては、
『よく動く』だった
なあ・・・。

僕のめあては、
『よくとぶ』だった。



僕のめあては、
『いっぱい動く』だ。

みんないろいろなめあてをもっていたんですね。
今日は、似たようなめあてをもっているお友達と一緒に
遊んで、全員のめあてがクリアできるようにアドバイス
してあげましょう。



<はたらきかける>

では、みんなで楽しく遊んでみましょう！！



手だて②

今までの活動を生かした多様な気付きが出るよう、同じ素材を利用しながら同じようなめあてをもっておもちゃづくりをしている児童毎にグループ分けをして遊ばせた。

写真:グループ分け



あっ、私は『水グループ』だ！

僕はひもを使っているから、『ひもグループ』だ！

そうか！
私は『磁石グループ』だ！

手だて③

グループで遊びながらの交流の時間が確保できるよう、単位時間を 60 分に延長した。



【水グループ】



【磁石グループ】



【空気グループ】



【ひもグループ】

手だて④

うまくいった児童の例といかない児童の例を比較する中で、自然に児童が素材の使い方に気付いていけるような投げかけをしていった。



こっちの船の方がはやく動くけど、あっちの船と何が違うのかな？

あっ、ストローの太さが違う。太い方がはやく進むんだ！

すごい発見だね！



じゃあ女の子に作り方を教わったらどう？

女の子のはよくとぶのに、僕のはとばないよ！

ロケットをもう少し小さくしてみたら？



うまくいってる子のおもちゃを使わせてもらったらどうかな。

僕のは飾りがすぐおっこってきちゃうんだよ・・・。

<ふいかえる>

めあてをクリアするために発見したことを、みんなで話し合ってみましょう！



手だて⑤

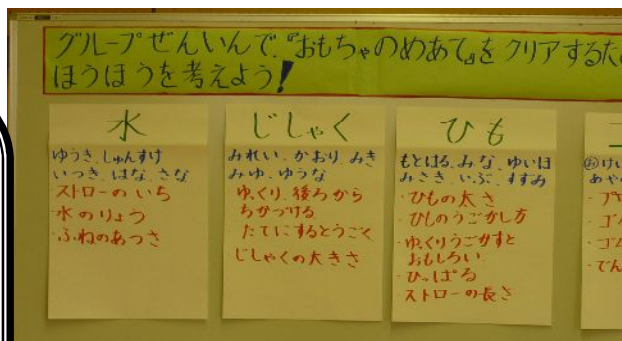
発表に対する抵抗を無くすため、気付いたことを付箋に簡単に書かせてから発表をさせた。



付箋に気づきを書いている児童



気付いたことを発表している児童



児童から出てきた気づき

今日は、みんなで楽しく遊びながら考えて、おもちゃをパワーアップする方法がいっぱい出てきましたね。次の時間は、今日勉強したことを基に、自分のおもちゃをもっと楽しいものにしていきましょう



授業を終えて

《成果》

- 児童の思いを大切にしながら授業構成を行ったことにより、児童が学習に興味を持ち、それぞれの活動に熱中していた。
- 60分授業を行ったことにより、児童が遊びながらつくるといった時間が確保され、その中から多くの気づきが生まれていた。
- 試し遊びの際にグルーピングしたことにより、友だちと比べ合ったり教え合ったりという活動が自然になされ、気づきの質の高まりが見られた。
- 二人の教師が各グループをまわって適切な声かけを行ったことにより、児童が安心して活動に取り組むことができ、様々な気づきが出てきた。

《課題》

- 児童の多様な思いや願いに対応していくことは難しい。授業者が児童の意識の流れを様々な視点から予想し、それに対する支援を具体的に考えていく必要がある。
- グループで活動させたが、グループとして意見の交流がうまくできなかった。グループで共通の課題を追究させるなど、グループ活動のもち方を今後検討していかなければならない。
- 児童が活動している中でそれぞれの気づきをひろってつなげていくためには、どのタイミングでどんな言葉かけをすればいいのかを、児童の思いに沿って考えていく必要がある。
- 単なる気づきの伝達の場になることが無いよう、振り返りの場では、グループ毎の話し合い、実物を用いた実演などを取り入れ、効果的な振り返りを検討していく必要がある。振り返る過程で、児童同士の意見の交流からさらなる気づきが生まれるような話し合いになると良い。